

平成 29 年 8 月 25 日

国際観光専門学校名古屋校 学校関係者評価報告書

学校関係者評価委員会

国際観光専門学校名古屋校

校長 田中 修

学校法人高村育英会 国際観光専門学校名古屋校 学校関係者評価委員会は平成 28 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施致しましたので、以下の通り報告致します。

1. 開催日時 : 平成 29 年 7 月 5 日 15:30~17:30
平成 29 年 8 月 10 日 10:00~11:30

2. 場 所 : 国際観光専門学校名古屋校

3. 出席者<五十音順・敬称略>

・学校関係者評価委員会 (7 月 5 日)

河辺 敬太郎 (卒業生)

(ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋 宿泊部ゲストリレーション課支配人)

小林 修一郎 (株式会社ツーリストエキスパーツ 中部営業部 部長)

樋口 偉久 (株式会社名古屋観光ホテル 取締役管理本部長)

平田 清浩 (株式会社栄美通信 名古屋支社 支社長)

・学校関係者評価委員会 (8 月 10 日)

※7 月 5 日はご欠席されましたので、8 月 10 日にご意見を聴取しました。

榊原 哲夫 (中経企業株式会社 代表取締役)

(日本ウェディングプランナー・ネットワーク協会 理事長)

学校事務局

清水 好郎 (国際観光専門学校名古屋校 常務理事)

田中 修 (国際観光専門学校名古屋校 校長)

西川 勲 (国際観光専門学校名古屋校 就職課課長)

西村 明啓 (国際観光専門学校名古屋校 広報課係長)

松浦 久年 (国際観光専門学校名古屋校 教務課課長)

4. 評価項目ごとの学校関係者評価・意見

(1) 教育理念・目標

評価・意見

- ・企業は、日本のおもてなしのマナーや、日本人らしいサービスの良さを求めている。またインバウンドのサービス対応できる企業が少ないので、英語力アップ、語学力のある日本人に期待する学校づくり、世界中を駆け巡る人材をつくる学校にしていく必要があるのではないか。
- ・観光系の企業が望んでいるカリキュラムになっている。パワーポイントで企画書などを作成するため、プレゼンテーション能力が強い学校になることを目指すことに期待する。
- ・「社会経済のニーズ等をふまえた学校の将来構想を抱いているか」については、ほぼ適切ではなく、適切が妥当であると考ええる。

(2) 学校運営

評価・意見

- ・特記事項なし。

(3) 教育活動

評価・意見

- ・「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力など資質向上のための取り組みが行われているか」について、ほぼ適切との自己点検・評価結果は妥当と考える。

(4) 学修成果

評価・意見

- ・「資格取得率の向上が図られているか」、「退学率の低減が図れているか」、「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握している」、「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」の4点について、ほぼ適切との自己点検・評価結果は妥当と考える。

(5) 学生支援

評価・意見

- ・特記事項なし。

(6) 教育環境

評価・意見

- ・特記事項なし。

(7) 学生の受入れ募集

評価・意見

- ・校舎が全く変わっていないイメージがあるので、最先端を目指していることを出してほしい。観光のイメージが見られないのが懸念される。明るい空間づくりが必要である。

(8) 財務

評価・意見

- ・特記事項なし。

(9) 法令等の遵守

評価・意見

- ・「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」は適切にすべき項目であるので、徹底していただきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価・意見

- ・高校、中学校のキャリア教育の受入れは評価する。

(11) 国際交流（必要に応じて）

評価・意見

- ・特記事項なし。

5. 学校としての総括

- ・自己点検・評価については、概ね妥当な評価結果となっており、適切との判断をいただいた。
- ・語学力を活かした世界で活躍する人材育成、校内の明るい空間づくりなど、評価を上げるように取り組んでいきたい。